

## 区長部研修報告



令和4年11月9日(水)、川中島町住民自治協議会が取り組んでいる「災害時住民支え合いマップ」の作成経緯や進捗状況をお聞きするため、区長部17名で川中島町住自協を訪問しました。川中島町住自協からは、会長、地域福祉ワーカーなど5名が出席し、取り組み状況について説明されました。

毎年のように、全国各地で災害が発生しており、川中島町住自協では、公助(公的機関)、共助(助け合い)、自助(当事者)の中でも共助の重要性を取り上げ、災害時に支え合う仕組みを作る「災害時住民支え合いマップ」の作成に取り組んでいます。10~15世帯を1ブロックとし、「最も支援が必要な方」、「少し支援が必要な方」、「自分で避難できる方」をマップに書き込み、「災害からひとりも取り残さない」を重点事項として作成しています。民生児童委員、消防団などとの打ち合わせや、ブロック毎の住民との話し合いなど何回も実施したそうです。

住民との話し合いは、お互いに情報交換ができ、非常に有意義であったとのことですが、個人情報の取り扱い、隣組による温度差、家庭内の事情をどこまで開示させるかなど課題も多くあったようです。住民を災害から守るため、川中島町住自協の大変な努力が伺えました。

災害はいつ、どこで発生するか分かりません。若槻地区としても、各種対策を実施していますが、今回の研修を参考に「共助」を考慮した、きめ細かな対策を進める必要性を感じました。  
(区長部)

## 防災講演会



自主防災会連絡協議会では、「若槻地区防災計画」の策定を進めています。

策定に向け、11月20日に長野市危機管理防災課の吉原防災対策官をお招きし「防災対策と地区防災計画」と題した講演会を開催し、地区防災関係者が聴講しました。

### 防災対策について

- 若槻地区の過去の災害: 長沼地震、大雨による床下浸水被害が確認される。近年時間雨量が増加している
- 若槻のハザードマップ: 洪水の早期立退き避難区域や土砂災害のレッドゾーンが確認される
- 避難指示: 不安な時はまず避難。分散避難や車による避難の検討も必要
- 自助・共助の重要性: 阪神淡路大震災での救出は約95%が自助・共助

### 地区防災計画について

- 国・県・市が策定する防災計画と異なり、住民側から作る計画
- 「長野市地域防災計画」の中に位置づけられ、市との連携が強化する
- 災害の軽減につながることを期待されるとともに、今までの防災への取り組み・活動を本計画にまとめることで、維持・継続及び検証・改善が図られる  
今回の講演を踏まえ計画を策定し、地域防災力の強化を図っていききたいと思います。(自主防災会連絡協議会)

### 自然観察会

## 昭和の森公園「バードウォッチング」開催

本年度第二回目となる自然観測会「バードウォッチング」が11月20日の日曜日、昭和の森公園において実施されました。紅葉した木々の葉もやや落ち始め肌寒い気候でしたが、10名の参加をいただき羽田先生のご説明から観察会がスタートしました。冒頭のご挨拶では、曇り空のやや風のある天候では小鳥のさえずりも少ないとのこと、心配を抱えての散策となりましたが、羽田先生の幅広い知識のおかげで、道すがら様々な草木の特徴について解説をいただきながらのウォッチングにより心配も杞憂となり、参加者にとって熱心な観察会となりました。

個人的には初めて知り得た草花もありました。サトウキビ科のママシグサはオスメスがあり、のちに事典で調べましたが、「雌雄異株」とのこと。また、キク科のオケラなど昆虫と間違えるような名前などを知り得て、一瞬に博学になったとの錯覚も覚えながら、羽田先生の説明に耳をそばだてました。身近な木々においても、同じように感動を受けました。ならの木は20から30年で伐採し、切り株から発芽により新木にするため植栽はしないとのこと、大木の桜の木の下での解説では、昭和の森の造成時などの成り立ちから本来水筋の木であり、その影響から大木に成長しているとのことなどの説明を受けました。

終盤で小雨になり、予定より早めにバードウォッチング本来のまとめになりましたが、10種類のさえずり確認が行えたとし、カルガモ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツグミ、ジョウビダキ、ハクセキレイ、イカル、オオビタキ、ジョウビタキを観察したとの報告をいただきました。

本年度の自然観察会は、コロナ禍と天候不調の影響を受けながらの実施となりましたが、羽田先生の熱心な指導と参加者の熱意により、成功裏に進められましたことに厚くお礼申し上げます。  
(自然環境部会)

